



つぎの100年に向けて

1996年3月中学校卒業
全学同窓会会長
100周年実行委員長 **大西 寛治**

四條畷学園が創立100周年という大きな節目を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。

本学園の歴史は1926年、牧田宗太郎先生・環先生のご兄弟が、母への「報恩感謝」の情を捧げるべく、北河内郡門真村の仮校舎に四條畷高等女学校を創設されたことに始まります。翌年には現在の地へと移転し、1929年に



は今なお私たちの誇りである本館が竣工されました。戦禍や度重なる自然災害、そして近年のコロナ禍という未曾有の困難を、その時々の教職員や関係者の皆さまが英知を結集して乗り越えてこられたからこそ、今日の発展があります。女子校として出発した学園は、今や保育園から大学までを擁する男女共学の総合学園へと見事な飛躍を遂げました。

現職の銭谷四條畷市長や岡本元大東市長は、学園の卒業生です。卒業生たちが、各方面で活躍されていることは、同窓会として嬉しく誇りに思います。

また、高市総理大臣や逢坂大東市長のような女性リーダーが登場するようになったことは、創立者が100年前に見据えた「未来」が正しく形作られている証左と言えるでしょう。

私個人の思い出を振り返れば、かつての学園生活が鮮やかに蘇ります。当時の運動会の目玉は、男子生徒全員による「飯盛登山競走」でした。今では「強行登山」と報じられるほどの過酷な行事でしたが、共に汗を流した仲間との団結心や絆は、何物にも代えがたい一生の宝物となりました。緑のリボンの高校生、赤のリボンの中学生、そして半ズボン姿の小学生。当時の制服は、時代の変遷とともに洗練されたベネトン社製へと変わりましたが、学び舎の活気は今も昔も変わりません。

かつて高台にテニスコートがあり、食堂でカレーライスやうどんを頬張った日々が懐かしく思い出されます。成人式をこの母校の体育館で挙げた際、大東市の新成人を収容できる立派な施設があることを誇らしく感じたものです。現在では、9階建ての校舎や全施設へのエレベーター設置など、教育環境は劇的な進化を遂げました。

当時、体育部・文化部の活動は、ともに活発でした。高校バドミントン部は、幾度も全国制覇を成し遂げまし

た。ソフトボール部や水泳部も全国レベルでした。今でも、クラブ活動は盛んで、水泳では東京オリンピック・パリアリンピックに出場しています。吹奏楽、マーチング部も全国大会に出場しています。全ての体育部・文化部の活動は、全国トップクラスです。また、勉学もいうまでもありません。いつも、文武両道に励む後輩たちの姿には、元気をいただいています。

現在、四條畷駅前では大東市駅前整備事業が進められており、学園を取り巻く環境は大きく変貌を遂げつつあります。四條畷駅で下車後、歩道橋を渡ることで、市道を通らずに直接学園の敷地へ入ることが可能となりました。また、小学校と高校の間にあった市道(一方通行路)につきましても、大東市より払い下げを受け、学園の敷地となっております。

生まれ変わった四條畷学園の姿を、ぜひ10月24日開催のホームカミングデー(全学同窓会)にご参加いただき、ご自身の目でお確かめください。四條畷駅直結の四條畷学園として、新たな歩みを始めております。

一方で、私学授業料無償化や少子化問題など、学園を取り巻く課題は依然として山積しております。これらの課題を解決していくためには、先輩・後輩を問わず、同窓生の皆さま方のご支援とご協力が不可欠です。どうぞよろしくお願いいたします。

今回、100周年という記念すべき年に立ち会い、私たちが受け継いできた伝統の灯が、より一層輝きを増していることを実感しております。この節目を機に、同窓会としても学園のさらなる発展を全力で支えてまいり所存です。

つぎの100年に向けて、四條畷学園が「人をつくる」学び舎として、より一層高く羽ばたき続けることを祈念いたしまして、私の祝辞とさせていただきます。

「立ち返る原点」を共有できる幸せ

学校法人 四條畷学園理事長
小谷 明

同窓会の皆さまには、平素より四條畷学園の運営に対し多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本学園は本年4月11日、創立100周年を迎えます。1926(大正15)年4月11日に行われた第1回入学式、わずか63名の入学者で産声を上げた学園は、一世紀という歳月を経て、今では在籍者3,500名、卒業生7万人を数える総合学園へと発展いたしました。この節目を迎えられたのは、同窓会をはじめ、学園を支えてくださった全ての関係者の皆さまの賜物であり、改めて深く感謝を申し上げます。

学園の100年を振り返れば、希望に満ちた時代ばかりではありませんでした。困難と危機感で迎えた創立間もない10周年、創立時のメンバーを次々失いながら迎えた戦中・戦後の混乱期、そして最近のコロナ禍など、幾多の嵐に翻弄された時期もございました。しかし、どのような困難に直面しても、私たちは常に「創立の原点」へと立ち返り、先人の生き方に学ぶことで、つぎなる一歩を踏み出す勇気を得てまいりました。

それは同窓生の皆さまにとっても同じではないでしょうか。「若楠会報」に寄せられるメッセージには、人生の節目や困難な時にこそ、学園での日々が「立ち返る

原点」となって自身を支えてくれたという言葉が溢れています。100周年というこの機会に、皆さまがそれぞれの「原点」を共有することで、「学園愛」という絆がより一層、強く確かなものになることを願ってやみません。

この記念すべき年の幕開けとなった1月10日、リニューアルした総合ホール「くすのき食堂」にて「退職教職員の集い」を開催いたしました。長年学園を支えてこられた先生方との邂逅は、まさに学園の歴史と個人の人生が交差する、かけがえのない時間となりました。離れていてもなお、学園のニュースを切り抜き、心に留めてくださっている姿に触れ、こうした深い慈しみが100年の歴史を支えてきたのだと、胸が熱くなる思いでした。

来る10月24日には「記念式典・記念講演会・記念パーティー」と「ホームカミングデー」、11月8日には幼小中高を中心とした「記念音楽祭」を予定しております。ホームカミングデーでは、在校生や卒業生のステージに加え、「吹奏楽部・マーチングバンド部OBバンド」による演奏も計画されています。クラスやクラブ単位での集いも大歓迎です。ぜひ、美しく整備されたキャンパスへ足をお運びください。

現在、創立記念事業の仕上げとして、駅前ロータリー



の整備など駅前整備事業と並行し、エントランスや中庭、保育園・幼稚園・小学校送迎進入路を整備しております。総合学園として一体化した新しいキャンパスが、皆さまを温かくお迎えいたします。

100周年という節目が、皆さまにとって「学園との絆」を再確認し、未来への活力となる機会になれば幸いです。季節の変わり目、皆さまくれぐれもご自愛くださいますよう、お祈り申し上げます。

『創立100周年に寄せて』

四條畷学園は本年、創立100周年という大きな節目を迎えました。この記念すべき年にあたり、各分野で活躍されている卒業生の皆さまより、在学時の思い出や現在に至るまでの歩み、そして次の世代への温かいメッセージをお寄せいただきました。四條畷学園の100年は、卒業生の皆さま一人ひとりの人生とともに築かれてきました。これらの寄稿文が、次の100年へ向かう大きな力となることを切に願っております。

今も思い出される3年間の思い出

1950年3月 中学校卒業
前全学同窓会会長(相談役) 岡本 日出士

昭和23年三百数十名の同級生とともに(男子としては2年目入学)飯盛山を仰ぎながら楽しい3年間を過ごさせていただきました。

昭和25年(1950年)、中学三年生の私たち野球部のチームは、学園の東側の狭い旧グラウンドであけてもくれても、毎日練習に励んでいましたが、1学期、南側の広大な今の小学校等の場所がグラウンドとして整備され、広々とした野球場として他校との試合や地域の大会会場として利用できることとなりました。

私たち学園野球部は北河内地区大会では優勝することができ、大阪大会に出場しました。新しくできた日生球場で開会式が行われました。大阪大会では強豪中学との対戦となり、残念ながら敗れてしまいました。多くの同級生に温かい応援をいただき、今でも懐かしい思い出として残っています。

他にも楽しかった潮岬や那智の滝を見学した修学旅行、息が切れる飯盛登山訓練、河内弁の私は発音に苦労した英語の時間、休み時間は雨天体操場での卓球など学園中学で過ごした三年間の思い出は私にとっては忘れることのない懐かしい日々であります。

今年は卒寿を迎えましたが世の中は大変なスピードで移り変わっていると感じています。時代の変化を先取りし、前進する四條畷学園の益々のご発展を祈念致します。



温もりのある学園

1985年3月 高等学校卒業
高等学校同窓会会長 前田(西崎) 章恵

四條畷学園創立100周年誠におめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。

輝く伝統の中で、生徒として三年間。保護者として六年間。そして同窓会の役員として、現在に至る日々を過ごさせていただいたことは、卒業生の一人として喜びに堪えません。

昭和五十六年、一年生で応援団員として体育会に参加し、二年生では竣工したばかりの総合ホールの教室に入ることができました。真新しい教室で黒板はまだビニールカバーが付いたまま。その新しさに喜びましたが、一つ不便なことが…。なんとまだカーテンが付いていなかったのです。三階とはいえ外から丸見え…。すぐに設置してもらいましたが、しばらく不便な時を過ごしたことが印象に残っております。三年生では、生徒会会長として文化祭に取り組むことができたが、運動部を中心とした「売店」が開催日程の変更により、三年間実施できなかったことが非常に残念でした。そのような中で、文化祭は生徒・先生だけでなく、PTAや同窓会・後援会の方々のご支援を得た「学園の姿」だと今でも思っております。

時代が平成になり、二人の子どもが中学校・高等学校でお世話になりました。それぞれ特設科や

弓道部、また水泳部で活動させていただき、卒業後の進路先も実現するようにご指導いただいたことは、学習面だけでなく、クラブ活動・進路指導他の面でのご熱心なご指導によるものと感謝しております。成長していく我が子の姿を見守りながら、「温もりのある学園」を改めて感じておりました。

令和の時代に入る前の年、平成29(2017)年度からは、高等学校同窓会役員としての機会を与えていただきました。昭和5年～昭和19年、牧田宗太郎先生が初代同窓会会長を務められてから、脈々と続く同窓会の歴史の中で、文化祭や体育会での支援、卒業式でのお言葉など、昭和の時代に私達にさせていただいたことを、今度は令和の時代にお力添えをすることで、学園で学んだ精神がいつまでも続いている思いがしております。

昭和・平成・令和と三時代に渡り、変貌する母校の姿を間近で感じることができるご縁に感謝しながら、四條畷学園の益々のご発展を祈り、お祝いの言葉といたします。



学園ブランドに育てられて

1979年3月 中学校卒業
中学校同窓会副会長 北田 宗男

学校法人四條畷学園創立100周年、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

四條畷学園には父、姉、私、弟、甥と三世代にわたりお世話になりました。

父は、中学校を昭和25年、高校を昭和28年に卒業しております。中学校では野球部に所属し、藤井寺球場で試合をしたことや、チームメイトに後の大東市長がおられたことなどを、幼い頃からよく聞かされておりました。高校時代は、体の弱い祖父の仕事を手伝いながら学園に通っていたそうです。

当時、学園高校は短期間ではありますが共学であり、父は「学園高校男子の一期生」であったことを誇らしげに語っておりました。父より年上の女性の在校生の方にお話を伺うと、男子生徒が入学してきたことを喜ばれていたとのこと、当時の和やかな学園の雰囲気が伝わってまいります。父は充実した学生生活を送り、卒業後も母校とのつながりを大切にしながら生涯を終えることができ、幸せであったのではないかと感じております。

私は中学校入学時すぐに姉の入っていたバドミントン部に強制入部させられました。厳しい練習が評判だったので、当時男子の入部希望者が少なかったみたいです。案の定、練習日数は1年360日程度で、練習休みは正月の2日と益くらいだったと思います。窓を閉め切った体育館は、まるでサウナのようで、座ることも許されず、先生の怒鳴る声だけが響く光景が今でも鮮明に思い出されます。監督の故杉田忠邦

先生からは、厳しいご指導を数多く受けましたが、そこでかけていただいた言葉は、今振り返るとスポーツのみならず、社会に出てからも大いに役立つものでした。「しんどい顔するな、お前だけしんどいんちゃうぞ。相手もしんどいねんから」や「勝つのは簡単や。相手より早く動けば勝てる」「練習時間以外に練習するのが、ホンマの練習や」「精神力や!」これらの言葉は、仕事に置き換えても、それぞれ深い意味を持つのだと感じています。なかでも、長年にわたり多くの選手を育て、指導を続けてこられた先生の姿から、継続することの難しさと大切さを学びました。厳しさの中にも温かさのあるご指導に、今あらためて感謝しております。現在もOB会などで当時の仲間たちと集まり、これらの思い出話に花を咲かせております。

また、地元青年会議所に入会した際にも、四條畷学園出身の先輩や後輩がたくさんおられ、学園出身というだけで可愛がっていただき、温かいご指導を賜りました。これもひとえに、学園が築いてこられた信頼と伝統、いわゆる「学園ブランド」のおかげであると感謝しております。

結びに、学校法人四條畷学園様の益々の発展を心よりお祈り申し上げます。



新たな100年に向かって

2009年3月 大学(作業療法学科)卒業
大学同窓会副会長 古原 将馬

リハビリテーション学部を出た皆さんにとって共通の思い出と言えばリハビリテーション学舎まで続く坂道がきっと出てくるはずだと思います。あの坂道を4年間毎日登り続けたことは僕自身も含めて人生で誇っても良いことの一つであると思います。初めて坂道を上り出来たばかりの綺麗な校舎を目の当たりにしたドキドキとした希望と不安など懐かしく今でも鮮やかに思い出せます。

初めて学園を訪れたのは入試の時でしたが、入試会場が学園中等部校舎であったため「なんだか古そうな建物だなあ」としか思っていませんでしたが、自分自身が年齢を重ねるにつれ時代の重みを感じるようになり、改めて学園校舎を見るとまさに100年の歴史を感じさせるかのような素晴らしい建物だと思うようになりました。

リハビリテーション学舎も入学した当初はまだまっさらに近い状態でありましたが20年を越え少しずつ味が出てきたようにも感じます。たくさんの学生や職員の方々の思い出が徐々に校舎に刻まれていき、その味の一部に自分が関わっていたかと思うと少し感慨深くもあります。我がリハビリテーション学舎もこれから新たな100年に向かって更に歴史を感じさせるような建物になってくれると嬉しいと思います。

我々も今や「人生100年時代」なんて呼ばれる世の中で生きていますが、ただ100年を目指して生きるだけでなく、せっかくならこの学園のように歴史を感じられるような歳の取り方をしたいですね。いつかまた同級生達と出会えた時にはお互いの歴史を語り合えるような人間になりたいと思います。



バドミントンとの出会い

小学校・中学校・高等学校・短期大学卒(1982年3月卒業)

全日本総合選手権女子シングルス8回優勝(5連覇) 芝(北田) スミ子



四條畷学園創立100周年誠にありがとうございます。

私は、父(北田雄一、故)が学園の卒業生ということもあり小学校から短期大学までお世話になりました。

小学校での思い出は、朝礼時校庭でのランニング、耐寒訓練では飯盛山、生駒山、金剛山と丈夫な身体を作る教育、今では珍しくない小学校からの英語教育などは既にあり、それと俳優をされていた島先生のことばの教育も心に残っています。その頃から先を見通し子供たちの未来を想定したものであったのだとおこされま。また、先生方もとても優しく丁寧に接して下さり学校へ行くのがとても楽しみでした。高学年になり、6年生の5、6時間目の授業(特別活動、杉田忠邦先生の授業)でバドミントンと出会い、それがなければ今の私はなかったと思います。

中学生になり、そのまま中学でも入部することになりました、小学校で楽しかったバドミントンが、こんなに大変なスポーツだと知り何となく逃げ出した経験があります。学園はすでに全国優勝をしていましたから、363日練習、正月2日だけ休み、1日休めば1週間遅れる、そして勝たなければならないバドミントンを叩き込まれる毎日、小学校でたての私がそんな辛抱ができるはずありませんでした。しかし、杉田忠邦先生(故)はとても深い愛情を持って私達を上手に引き戻して下さいました。今の子供達のように小さい頃から積極的に自分の道を切り開いていく気持ちは私にはその頃無かった様に思います。学園はのんびりと自由に、それでいて自分で考え行動できる時間と余裕、そんな生活を送れる雰囲気だからこそ、その後の高校、短大に上がっても監督の片岡輝明先生(故)、コーチ、スパーリングをして頂いた仲尾信一先生、顧問の飯田英佳先生(高校)、黒石久昭先

生(短大)のご指導も厳しいながらも沢山の困難を乗り越えられました。

それと短大1年時には体育の授業で山口良治先生(スクール☆ウォーズのモデルになった先生)との出会いもあり『日本代表とは』そんなお話を山のグラウンドへ向かう道すがらよく聞かせて頂きました。競技種目は違えど行く道は相通じるものがあるんだという学びもありました。学園で人生の基本を学べたからこそ、その後の人生に生かせることが沢山あったことに感謝しています。

スポーツで勝つ為には一貫性指導は不可欠で、バドミントン部にはそれが出来上がっていましたので、当時の小田切理事長の後押し、学園内の先生方のご理解もありましたので、全中、インターハイや国体、全日本、世界で歴史に名を残すことができたのだと思います。そして、もう一つ私が本当に凄いと感したことは、片岡先生、杉田先生が学園の在校生だけで選手を育て上げたということです。昨今、県外から強い選手を集めて育てるのではなく、在校生の中から逸材を見つけ育て上げたということが、何よりも勝る偉業だと思います。そして、今でもその大記録は破られていないということです。その様な恩師、環境に出会えたこと、苦楽を共にした先輩方、同期、後輩達と出会えたことは私の誇りとなっています。

現在私は、最初に杉田先生に教わった楽しいバドミントンをしながら他大学の学生と小谷理事長が仰る『喜ばれる喜び』を感じながら、心ばかりの恩返しをさせて頂いております。彼女らの子供たちがバドミントンを選んでくれることを願いつつ…

最後になりますが、学園で培った心をこれからも謙虚な気持ちで持ち続け伝えて参りたいと思います。

創立100周年を機に、高等学校吹奏楽部の歩みを振り返ります

小学校・中学校(1973年3月卒業)

四條畷学園高等学校前校長・大阪府吹奏楽連盟理事長 西脇 健司



四條畷学園吹奏楽部の源流は、昭和14(1939)年に四條畷高等女学校で結成された「鼓笛隊」にあります。特設科として設置されたこの鼓笛隊が、本学園における吹奏楽・マーチング活動の出発点でした(50年誌より)。

当時の全関西吹奏楽団連盟名簿には、校長:牧田宗太郎、代表者:小代義雄、指揮者:庄司憲太郎の名が記されています。学校長の理解と支援のもと、専門的な指導体制が整えられていたことが分かります。特に庄司憲太郎氏は、演奏や行進の技術指導を担い、創部初期の音楽的基盤を築いた重要な存在でした。

昭和16(1941)年11月2日、天王寺公園で開催された第2回関西吹奏楽団連盟愛国吹奏楽大会において、本校鼓笛隊は演奏行進の審査を受けました。さらに昭和17(1942)年9月13日、大阪市難波神社で行われた第3回大会では、課題曲「海國日本」を演奏行進し、学生の部で関西1位を獲得しました。同年11月23日には福岡市東公園で開催された第3回全国吹奏楽大行進に出場し、全国3位に入賞するなど、創部間もない時期から全国レベルで高い評価を受けていました(関西吹奏楽団連盟記録より)。

その後、時代の変化により活動は一時中断しますが、昭和47(1972)年に高等学校ブラスバンドサークルとして再出発します。昭和51(1976)年には、大橋みゆきのもと「音楽科・四條畷学園吹奏楽部」と改称し、中学校・高等学校合同バンドとして新たな歩みを始めました。

昭和58(1983)年からは中学校と高等学校がそれぞれ独立し、高等学校は田主義行・西脇健司が顧問となって新体制で活動を開始します。翌昭和59年からは吹奏楽コンクールやアンサンブルコンテストに本格的に参加するようになりました。さらに平成14(2002)年からは、マーチングコンテスト・フェスティバルの部にも出場し、活動の幅を広げていきます。

平成15(2003)年には御堂筋パレードに初参加し、平成19(2007)年からはマーチングバンド関西大会に出場するなど、創部当初の鼓笛隊の精神を受け継ぎながら、座奏とマーチングの両面で発展を続けています。

これまでの部活動を通して、先人たちが大切にしてきた「個性の能力を尊重する教育」と、「自主性と協調性を育む姿勢」は、現在も受け継がれています。生徒一人ひとりと向き合い、それぞれの特性を理解し、目標を持たせることで、自ら考え行動する力が育っていくことを実感しています。

この学び舎が末永く続いていきますように

1984年3月 短大(児童教育学科)卒業・四條畷学園後援会会員

(株)コノミヤリアルエステートラボ 代表取締役 芋縄 典子



報恩感謝の精神のもと学ばれている現学生の皆さま、また卒業生の皆さまにおかれましては、健やかに過ごしながらいられていることと思います。

四條畷学園創立100周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

100年の歴史の中で私が学んだ日々はとても尊く、出会った先生方や友達とは今でも交流を続け、会えば当時の話に花を咲かせています。

私が入学した昭和57年は、戦後37年の年で街は活気に溢れ、日本は黄金時代に突き進み新たな時代を迎えた年でした。東北新幹線、上越新幹線が開業し交通網の発展が加速し、500円硬貨が発行されたのもこの年です。日本の未来に不安と期待に胸を踊らせ、その頃の私は自分の将来について深く考えている時期でした。

四條畷学園の短大を勧めてくれたのは母でした。母は公立小学校で教鞭を執っており、今でも教え子の心に残る素敵な先生だったと聞いています。母の希望と私も幼児教育に興味があったこともあり、四條畷学園の短大を受験しました。しかし、入学した年の春、母は一年前から患っていた病で定年を待たずして帰らぬ人となりました。

当時、意気消沈して短大を辞めようかと悩む私に親身になって下さった恩師、小児栄養学の助教授であられました石村哲代先生には本当にお世話になりました。石村哲代先生の研究室ではいつも挫けそうになる私を励まして下さいました。そのお陰で今の私があると言っても過言ではありません。

短大に通っていた頃、私の通学する時間が幼稚園の子供達や小学生の子供達に通園、通学する時間と重なっており、その子供達が生きていき、そして自由に楽しそうに通う姿は私にはとても

眩しく輝いて見えました。そんな子ども達に通う幼稚園と小学校は私の憧れとなりました。将来我が子ができた時、この場所で育ててもらいたいと強く心に思ったことは今でも鮮明に覚えています。

短大を卒業し一般の企業に就職した私は、良き伴侶と巡り会い家業を継ぎ2人の娘達にも恵まれました。念願叶い、長女は四條畷学園幼稚園から四條畷学園高等学校までお世話になり、次女は『ママの後輩になりたい』と言ってくれ、幼稚園から短大まで四條畷学園でお世話になりました。しかし、子育ては山あり谷ありで楽しいことばかりではなく思い悩むこともありました。そんな時は迷わず幼稚園、小学校、中学校、高校の先生方に相談し良きアドバイスを受けて乗り越えて来ました。

学園の先生方はどの先生もとても心温かくて親切な方ばかりでした。私達をのびのびと育てて下さった石村哲代先生はじめ四條畷学園の先生方にはとても感謝しております。

現在、長女は結婚し私の母と同様公立小学校の先生をしています。そしてその娘の子ども達、私の孫は3人も四條畷学園の幼稚園と小学校に通っています。次女はこの春短大を卒業し社会人となりました。私がお世話になった石村哲代先生はご健在で今でも懇意にさせて頂いております。3世代にわたり四條畷学園の学び舎でお世話になったことは私にとって、とても感慨深いことです。

私や子ども達、孫を育てて下さった母校・四條畷学園が今後100年先、そのまた先の未来へ続いていきますことを心から願い、これからもずっと応援し続けていきたいと思っています。

夢中になれる場所

2005年3月小学校卒業

四條畷学園小学校教諭 北田 健太郎



創立100周年という節目の年を迎え、教員として毎日子どもたちと過ごしながら、ふと自分の小学生時代を思い出すことがあります。思い返すと、当時の私は「やりたい!」と思ったことがあると、周りが見えなくなるくらい夢中になってしまうような子どもでした。当時の先生方は私の考えを決して否定することなく、「面白そうだね!どうやったらできるかな?」と一緒に考えて、笑顔で背中を押してくれました。

「顔に絵の具を塗られるとどういう感覚なんだろう。」と気になり、美術でプランを立てて友達とお互いの顔に絵を描いたり、「ペットボトルで船を作ってみよう。」と思い、プランを立てて船を作って、実際に外プールに浮かべて乗ったりもしました。絵の具が乾燥して顔が痛かったり、冷たいプールに落ちたりもしましたが、そのときは今でも鮮明に覚えています。それは、当時の先生が私の「やりたい!」という気持ちを大切にしてくれたからだだと思います。そしてこのことは、今でも私の心の支えとなっています。

教員になった今、子どもが「こんなことやってみようねん!」と目を輝かせて話してくれる瞬間に出会うときがあります。その瞬間、あの頃の自分と先生方の姿が重なり、胸が温かくなります。「どうしたら実現できるかな?」と一緒に考える時間は、私にとって幸せなひとときです。あの頃先生方にももらった応援の気持ちを、今は私が受け継ぐ番ののだと感じます。

この四條畷学園が大切にしてきた、子どもの“やってみよう”を信じて支える文化は、100年という長い歩みの中でたくさんの子供を育み、子どもの気持ちに寄り添ってきたことと思います。その歴史の一部に、卒業生として、また教員として関わらせてもらえることに、あらためて感謝の気持ちが込み上げてきます。

これからも、子どもたちが安心して夢中になれる場所であり続けられるように、私自身も感謝の気持ちと明るい気持ちを忘れず、子どもたちとの日々の関わりを大切にしていきたいと思っています。

静と動の中で、今も生き続ける学園の学び

四條畷学園が創立100周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。幼稚園から高校卒業まで、人生の基礎となる大切な年月をこの学園で過ごした卒業生の一人として、この節目に寄稿の機会をいただきましたことを、大変光栄に思っております。

私は昭和43年生まれで、幼稚園から四條畷学園に入園し、小学校・中学校・高校へと進学し、卒業いたしました。振り返れば、学園での日々は、知識だけでなく、人としての在り方や物事への向き合い方を、自然と身につけさせてくれた時間だったように思います。

小学校ではバドミントン部に所属し、仲間とともに汗を流しながら努力を積み重ねる喜びを知りました。中学校では美術部で自分の感性と向き合い、表現する楽しさを学びました。高校では弓道部に所属し、礼を重んじ、心を整えて一つのことに集中する姿勢を身につけました。これらの経験は、形を変えながら、今の私の生活の中に息づいています。

高校卒業後は大阪府内の短期大学英文科に進学し、その後大手ゼネコンに入社しました。そこで出会った主人と結婚し、東京での生活が始まりました。環境が大きく変わる中でも、柔軟に人と関わり、前向きに歩む力は、学園生活の中で育まれたものだったと感じています。

二人の男の子に恵まれ、子育てに向き合う日々の中で出会ったのが、フラワーアレンジメントでした。花と静かに向き合い、色や形の調和を考えながら作品を仕上げている時間

幼稚園・小学校・中学校・高等学校(1987年3月卒業)
STUDIO BERRY主宰 大塚(梶) 千秋



は、心を落ち着かせ、自分自身を整える大切なひとときです。資格を取得し、教室を開くようになった今も、花を通して人の心が和らぎ、穏やかな笑顔が生まれる瞬間に、深い喜びを感じています。

一方で、もう一つの私の大切な活動が、ラジオ番組のアシスタントとしての仕事です。放送前のスタジオには、独特の高揚感と心地よい緊張感が漂います。パーソナリティの明るい声、ゲストの方との弾む会話、番組のテーマソングとともに始まる収録。刻々と進む時間の中で、会話の流れを感じ取り、場の空気を読みながら番組を支える毎回の放送は、まさに躍動の連続です。さまざまな分野で活躍されている方々の言葉が、スタジオいっぱいになり、それが電波に乗って誰かのもとへ届いていく――その瞬間に立ち会えることに、大きなやりがいと喜びを感じています。

静かに花と向き合う時間と、人と人の言葉が行き交うラジオの現場。一見対照的なこの二つの活動の根底には、「相手を思いやり、心を通わせる」という共通の軸があります。その姿勢は、四條畷学園での学びの中で、自然と培われたものだと感じています。

四條畷学園が100年にわたり、多くの学びと出会いを育んでこられたことに、心より敬意を表します。これからも学園が、次の世代の可能性を照らし続ける存在であり続けることを、卒業生の一人として願っております。

四條畷学園 創立100周年記念 ホームカミングデー(全学同窓会)のご案内

四條畷学園は1926(大正15)年の創立以来、「報恩感謝」を建学の精神とし、「個性の尊重」「明朗と自主」「実行から学べ」「礼儀と品性」を教育方針として歩んできました。学園生・同窓生が大切にしてきた校風は、時代が変わっても変わりません。今回、創立100周年を記念し、ホームカミングデー(全学同窓会)を盛大に開催します。現職・退職された先生方も来校予定です。ご友人とお誘い合わせのうえ、ぜひご参加ください。皆さんのお越しを心からお待ちしております。



イベント開催日 令和8(2026)年10月24日(土)

第1部 音楽とダンスのステージ

会場 高校体育館(約1,000名収容) 会費 無料

- ・総合司会:吉本新喜劇 金原早苗さん(高57回卒)
- ・高校文化クラブ:演奏・演技
※吹奏楽部・マーチングバンド部・ダンス部・バトン部・歌声部 出演予定
- ・歌手:音葉みずき(佐藤亜紀子)さん(高51回卒)
- ・津軽三味線演奏:飯田華那さん(高校71回・短56期卒)
- ・演奏:100周年記念結成卒業生(吹奏楽・マーチングバンド部)バンド



卒業生バンド▶



総合司会 吉本新喜劇 金原早苗さん(高57回卒)

3年間、高校吹奏楽部に所属し、トロンボーンを担当し、3年次には部長を務めました。勉強と部活動の両立に悩みながらも、仲間と支え合い、吹奏楽部で過ごした日々は、今も人生の大切な原点となっています。卒業後は吉本新喜劇の一員として芸人の道へ進み、現在も舞台上に立ち続けています。持ちネタに、滝川クリステルや高市早苗のモノマネなどがあります。



歌手 音葉みずきさん(佐藤亜紀子さん)(高51回卒)

演歌や歌謡曲を中心に東京で活動。地域の祭り・高齢者福祉施設で活動、年に3回ワンマンライブも開催。昨年、新曲もリリース。聴いてくださる方々の心に寄り添えるよう、感謝を胸に丁寧に歌います。



津軽三味線演奏 飯田華那さん(高校71回・短56期卒)

幼少期より藤本流三味線を学び13歳で津軽三味線に魅了され転向。令和2年に津軽三味線山中流名取師範「山中信那」を襲名。津軽三味線全国大会で数々の賞を受賞。関西を拠点に地域のイベント出演や伝統文化の普及に努める一方海外公演や他分野のアーティストとの共演を通じ、津軽三味線の新たな可能性を追求しています。

第2部 立食パーティー(椅子も若干用意)

会場 クスノキ食堂(100周年記念事業でリニューアルされた学園町食堂) 時間 15:45(予定)~18:00 定員 約300名(申込順) 会費 3,000円(小学生以下無料、中学生・高校生2,000円)

※3歳以下のお子様は、会場の関係でご遠慮ください。

美味しいパーティー料理、デザート、ソフトドリンク、アルコールを準備します。



クスノキ食堂



新キャンパス

その他 キッチンカー(10台程)が来ます 有料

新しく生まれ変わった学園キャンパス(学園正門付近)に飲食スペースを設けます。仲間同士でゆっくりご歓談ください。



記念品進呈

参加者の皆さまには、素敵な100周年の記念品(キーホルダーorハンカチ)をお渡しします。



キーホルダー

ハンカチ(今治タオル製)

申込方法

同封しているホームカミングデー案内チラシをご覧の上、申し込んでください。

申込期間 5月1日(金)~9月30日(水)

事務局からのお知らせ

1.年会費納入のお願い

このたび、第16号「若楠会報」を発行することができました。例年10月に発行しておりますが100周年記念特集号として、今回4月に発行致しました。併せて、20歳以上の方、約2.5万の同窓生の皆さまを対象に発送いたしました。(通常は30歳以上を対象)同窓会の活動は、若楠会報の発行・全学同窓会ホームカミングデー開催などがあります。これらの活動は、同窓生の皆さまの入金・年会費により賄われており、一人でも多くのご支援が不可欠であります。同窓会活動のより一層の活性化の為、添付の用紙にて、年会費2,000円の納入について、何卒ご協力のほどお願い申し上げます。

2.住所変更のご連絡について

同窓会HP(右の二次元コード)からご連絡をお願いします。また、皆さまのお知り合いの卒業生で、若楠会報が届いていない方は、住所不明者になっていると考えられます。住所変更のお声かけをお願いします。



同窓会HP

3.同窓会事務局のご案内について

事務局は四條畷学園短大清風学舎6階にあります。機会があればお立ち寄りください。事務局長在室 月・火・木・金 9:00~16:00 ☎072-876-1321(内線83-601) ✉dousoukai@shijonawate-gakuen.ac.jp

学園の歌集『飯盛嶺』第28歌集

短歌募集

歌集『飯盛嶺』は、学園に在学する児童・生徒・学生、ならびに保護者の皆さま、教職員から寄せられた短歌を掲載しています。このたび、創立100周年記念事業の一環として新たに整備される中道に、『飯盛嶺』に掲載された短歌を陶板に転写焼成し、設置することが決定しました。

つきましては、同窓生の皆さまにも、創立100周年にふさわしい短歌をぜひご投稿ください。投稿は右の二次元コードよりお願いいたします。(締切:5月31日)

